

令和 7 年度 施策評価表

施策	0302	芸術・文化の振興	施策担当部	教育委員会	部長	川下隆治
			施策担当課	文化振興課	課長	大野安生
施策の方針	芸術・文化に接する機会を提供するとともに、情報発信に努める。また、関係団体の育成・支援や小・中学生の文化活動を支援する。					
関連するSDGsのゴール	  					

【DO（実施）】

後期基本計画（令和3年度～令和7年度）における数値目標

指標名	単位	基準値 (R1)	R3目標値	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R6年度	
			R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値	達成率	進捗率
① 芸術・文化事業への参加者数	人/年	13,066	13,000 7,831	13,000 13,830	13,500 66,971	13,700 29,479	13,700	215.2%	215.2%
②									
③									
④									
⑤									

施策達成状況の説明

市主催・共催・委託事業並びに文化協会、文化団体及び大村市文化・スポーツ振興財団が行う事業は、参加者が増加傾向である。特に、財団主催事業において、「シーハットおおむら市民ミュージカル」を3回公演を行うなど、市民を巻き込んだ質の高い事業を実施している。また、令和5年度は財団共催事業の「ワールドドリームサーカス」が開催され実績値が大幅に増加しているが、サーカス入場者を除く実績値は25,680人であり、令和6年度実績値はさらに増加している。

施策経費

(単位:千円)		R6年度 決算	R7年度 予算	R8年度 見込	特記事項
内訳	事業費	170,465	75,495	53,060	
	国庫支出金	0	0	0	
	県支出金	0	0	0	
	地方債	0	11,600	0	
	その他	14,502	22,409	8,441	
	一般財源	155,963	41,486	44,619	
	人件費	10,411	10,606	—	
フルコスト	180,876	86,101	—		

施策の概要（細施策）

030201	芸術・文化に接する機会の提供	市民が優れた芸術・文化に触れることができるよう、多様なジャンルの芸術・文化を楽しむことのできる機会を提供するとともに、積極的な情報発信に努めます。
030202	芸術・文化団体の育成・支援	市民の主体的な芸術・文化活動の支援と活動の裾野の拡大を図るため、団体の育成・支援を行うとともに、団体間の相互交流を促進します。また、将来を担う子どもたちの芸術文化活動の活性化を図るため、小・中学生の文化活動を支援します。

**【CHECK（評価）施策担当部長】**

**施策を達成する上での問題点・課題**

令和6年度の市内の芸術・文化活動に対する参加者は、令和5年度と比較してワールドドリームサーカスの参加者数を除くと、増加している。文化協会に所属する文化団体は減少し、構成人数は若干増加したが、団体の活動及び存続に影響を及ぼすと思われる。本市の芸術・文化を振興するためには、活動経費面での支援及び小中学生など若い世代への支援が、今後さらに必要となっていくと考えられる。また、文化・スポーツの活動の場や機会を提供する体育文化センターが、開設25年を超え経年による不具合が生じており、今後計画的な設備改修が必要となっている。

**【ACTION（改善・改革）】**

**上記の問題点・課題を踏まえた事務事業の改善・改革や新規事業についての考え方**

市民の芸術・文化活動及び文化団体の活動を支援するため、活動の場及び芸術に触れる機会を創出し、活動経費の負担軽減を図るための補助を継続する必要がある。文化・体育活動の拠点である体育文化センターは老朽化しており、引き続き施設・設備の更新を計画的に行い、誰もが安全・安心・快適に利用できるようにする必要がある。

**令和8年度新規事業**

	事業名	担当課	令和8年度見込	対象・事業概要など
			事業費（千円）	
1				
2				
3				
4				
5				
			0	